

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809160		
法人名	伊藤電気株式会社		
事業所名	グループホーム大曲はなぞの 1号館		
所在地	秋田県大仙市大曲花園町25-28		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念として①家庭的で暖かい雰囲気の中での生活。②生きがいのある生活。③人間としての尊厳が守られる生活。④地域に溶け込んだホーム作りを目指します。1・2号館、それぞれの入居者様のこれからの生活を尊重し、馴染みの家事や得意なこと、興味のあることをこれからも継続し、穏やかに過ごされるよう支援させていただいています。コロナ禍で入居者様が楽しみにしている、保育園児やボランティアのお茶会などの来訪は無いが、ドライブで気分転換を図り、行事食や特別メニュー(寿司・弁当)で楽しみを持っていただいている。地域に溶け込めるホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

冬は雪下ろしなどの力仕事は、本社から社員が来てやってくれたり、壊れた時や、手すりの設置等もすぐに直したり取り替えたり設置してくれたり、館内は清潔で整理整頓が行き届き、備品も整理されている。若い人も意見が出しやすいよう、先輩職員は気を付けており、自分の意見が口に出しやすい職場で、管理者もきちんと意見を受け取り、職員の意見が反映されやすくオープンな環境である。以前のように外食までは出来ていないが、コロナ禍の中でも何が出来るのかを模索し、床屋や自宅への外出や人の出入りの少ない所へのドライブ、家族との面会を再開し始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに理念を掲示している。日々の申し送りやサービスの提供場面に理念が反映されるように努めている。今はコロナ禍で月1回のカンファレンスは行われていないが、スタッフがカンファレンスに目を通し印をしている。	開設時に作られた「家庭的で暖かい雰囲気の中での生活」「生きがいのある生活」「人間としての尊厳が守られる生活」「地域に溶け込んだホーム作り」という理念の通り、職員は、家庭的な食事を心がけたり、本人の生きがいをケアプランに盛り込み、尊厳を守るため常に考えを受け止め聞く姿勢を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内便りを頂いている。コロナ禍で2年位は交流は無い。	コロナ禍により、地域との交流は少なくなっているが、以前は歌や踊りのボランティアの人が来てくれたり、町内の昼食会に参加したりと、地域には溶け込んでいる施設である。	以前から地域には溶け込んでいるが、コロナ禍により交流が少なくなってしまった。コロナ禍においても地域との積極的な交流の再開に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談所を設置し地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の前は町内会長、地域の方、以前入居していた入居者家族様にも参加して頂いていた。会議では率直な意見が聞かれ、それを受けて取り組んでいた。11月から再開する。	紙面での開催となって、直接生の声を聴くことが難しかったが、今月より、対面での運営推進会議を再開し、コロナ前のように、活発な意見交換が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域担当者として、地域包括の職員より定期的に情報交換や相談を頂き、サービスの向上に活かしている。	入居希望者の紹介や、独居の利用者さんに何かあった時の対応方法等、協力関係を築きながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回内部研修を行い、身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化研修プログラムが組まれ実施している。又、身体拘束適正化委員会も構成されており、委員会での内容は全職員が閲覧し捺印されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回内部研修を行い、職員で話し合い、ケアが精神的・身体的に苦痛にならないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があったが、実際に制度を利用した事は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に入居者様、家族の方と面談し、不安や疑問を解決した上で契約している。改正があれば文章や口頭で説明をして、理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し時期に郵送で、意見を頂いている。	面会を希望する意見が多く、短時間だが面会の機会を持てるよう配慮したり、コロナ禍が出来た事を探しながら反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルス発生以前は月1回代表者も参加できる限りは加わって頂き、全職員での会議の場を設け、意見や要望を話し合っていた。現在は感染対策にて報告書での回覧となっており、設備面や備品にて不良あれば都度報告し、電化製品やベット等の交換に繋がっている。	希望休や連休、急な休暇希望にも対応されている。夜勤のみのパートから日勤のみのパート、その後正職員への雇用変更等、勤務条件も要望に沿えるよう配慮している。空気清浄機やベッド等、必要との意見が出ると準備したり、壊れて直して欲しい時や手すりの取り付けの要望があると対応したりと、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度職員評価を実施、実績を評価し、意欲をもって勤務できるよう努めている。設備に関しては、職員の不便の無いよう、不備や不具合には早めに対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員評価で力量を把握。コロナの為外部の研修の機会が減ったが、リモートで行われているものは参加できるよう案内している。社内研修も毎月行い資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はグループホーム協議会等に参加して、交流を深めたり、勉強会への参加に努めている。(今現在はコロナ禍のため相互訪問は行っていない。)代表者は一部の会の役員として研修の企画、立案にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で可能な限り訴えや要望を聞き、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始までの相談で家族の気持ちを受け止めるようにしている。入居後も落ち着かれるまで連絡を取り合える体制作りをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で生活を共にしているという関係を目指し実施している。入居者の思い・不安・喜び等を共感し、共に支え合えるような関係をつくっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや意向を大切にしながら、家族と繋がっていることを認識できるように支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員はもちろん、家族の協力にて自宅近くへの外出、馴染みの美容院へ行き、共に過ごす時間が持てるよう支援している。訪問理容の利用もしている。	家族との面会が出来ない中、家族の事を忘れないよう、話題に出したりと、コロナ禍が収まった時に関係が途切れないよう配慮しながら支援している。病院受診の帰りには家族対応で昼食を食べて来たり、家族と過ごす時間が少しでもとれるようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や、一人ひとりの思いを把握し、必要時は職員も見守りや仲介することで、孤立しないよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ、居宅のケアマネージャーとの連絡もとり、相談・情報提供し付き合いを続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の言動や行動の変化などから、思いや意向を確認するようにしている。把握が困難な場合は、これまでの生活歴を念頭におき、検討・実践している。	普段の他者同士の会話にも耳を傾け、本当の想いを吸い上げるようにしている。 自分から意見を言いにくい人はケアプランに会話を多くする計画を立て、意向の把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人や家族からバックアセスメントや聞き取りをしている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が日課にしていたことを継続できるように努めている。馴染みの作業も手伝って頂いている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始時やケアプランの短期目標の期間には家族に意見や感想、どのような支援をしてもらいたいかな聞き取りを行った上、利用者本位の視点から得られた気づきや、本人からの意見・要望を反映した介護計画を作成している。	一人ひとり話を聞きながら、家族の意見も取り入れ、担当職員が評価を行い、サービス担当者会議を開催し、作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時に情報の交換を行い、改善すべき点について話し合いをしている。日々の行動・言動・ケアプランの内容も記録に残すようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇作業に取り組んだり、見てもらったりしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりがこれまでのかかりつけ医で継続できるよう支援している。協力医院からの往診・検診もあり、必要に応じて入居者一人ひとりが相談できる体制ができている。	基本的には職員が対応しているが、遠方の病院は家族の協力の元、かかりつけ医が継続できるよう支援している。協力歯科医は、年に1回健診に来て下さり、治療が必要な人は職員が付き添い歯科受診している。健診では、虫歯の他、入れ歯の状態や呑み込みも診てもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約をし、月4回の定期訪問と、状態変化時の相談等を24時間体制にて対応できるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者に情報提供をし、入居者様が不安無く治療を受け、早期退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応については事例を経験している。その経験を活かし、入居者様が安心できるような、重度化や終末期にむけた支援体制を構築している。	5.6年前に緩和ケアの病院が出来た為、病院と施設を交互に利用したりしながら支援している。何かあった時の取り決め等、終末期への支援体制もできている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や連絡網の整備、勤務表作成時、毎日当番制にて緊急時に出動できる体制を整えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練と年1回水害訓練を、コロナ禍前までは近隣住民にも協力をあおいで実施していた。以前、近隣で火事があり、近隣住民や運営推進会議に出席してくれた方も駆けつけてくれた。	洪水時の水害訓練では、車で5分程度の避難場所である小学校への避難を実施している。緊急連絡網には近所の人も登録されており、協力体制が築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の徹底を図り、入居者様のプライバシー保持に努めている。職員は入居者様一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけ等にも留意している。	年度初めの4月の社内研修で必ず行っている。 トイレ時の確認方法や名前の呼び方、他の人が居る時は大きな声ではなく耳元で対応する等、徹底した対応をしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で、食べたいものや行きたい所等の自己決定できるよう話しかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの体調に考慮しながら、したいことを把握し、入居者様が主体となって暮らせるよう、個別支援に努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と洋服選びを一緒に行っている。外出時や受診時など事前に知らせておくことで、身だしなみを整えることもできている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を作り、バランスの摂れた食事を提供している。誕生日には食べたいものを聞き、行事に合わせて季節を味わってもらっている。片付けは声かけでやって頂いている。	以前は外食を楽しむことも多かったが、現在はコロナ禍で出来ない為、月に1度は食べたい物を出前したりと楽しんでいる。家庭的な食事を心がけており、近隣や家族等から食材を頂いた時は、急遽献立を変更し、季節の食材を取り入れ、美味しいと好評である。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの状態を把握した水分量を提供している。病気や体重の増減にあわせ、低糖質の食事を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアをしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。	チェック表を使用し、一人ひとりの間隔を把握し、間に合わない事が少なくなるよう、又便秘にならないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、飲食物の工夫や体操を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣に合わせてながら週2回の入浴日を設けている。入浴前には血圧や熱を測り体調チェックを行い、健康管理を確認してから入浴を行っている。	日曜日以外は入浴でき、一人ひとりの湯加減や時間の長さに合わせて対応している。入浴拒否される方には時間をおいて声掛けを行ったりと工夫をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の体調に合わせて、休憩や睡眠ができるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬についても理解し、内服後の状態についても記録している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、入居者様の好みや能力に応じた活動ができるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を見て、町内の散歩やドライブ等、戸外に出掛けられるよう支援している。家族からの協力で、外出もできている。	天気が良いと、当日でも散歩やドライブに行ったりと、フットワーク軽く出掛けている。買い物と一緒にいたり、買い物が無い時も「じゃあ出掛けようか」と一人ひとり希望の所に出掛けられるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用をしている方はいらっしやらない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、できる限り電話のやり取りができるように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は自室の延長のように安らげ、心地よく過ごせる造りになっている。室内は段差の無い構造、窓は二重サッシで落ち着いた色彩のカーテンがかけられ不快の音は感じられない。	出掛ける事が少なくなった分、以前より明るい空間にと、手作りの飾りつけが所狭しと飾られている。 空気清浄機も新たに加わり、掃除も行き届いており、居心地の良い空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチやホールのソファで過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で飾っていたり使っていたものを持って来て、自宅にいた時と同じように、居心地良く暮らせるように工夫をしている。	担当職員が、本人と相談しながら配置している。ベッドの左から降りていた人が、骨折し、右から降りられるよう模様替えを行ったりと、都度一人ひとりに合わせた居室となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手摺を設置しており、安全に生活できるように配慮している。		